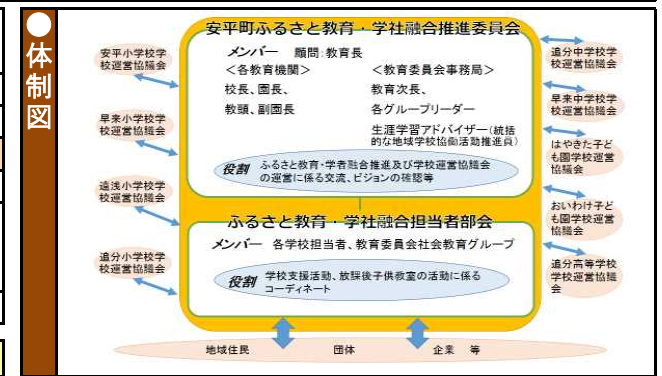


こんな活動です

「町は子どもたちを育てる大きな学校」の視点で教育活動を支援する取組

北海道安平町	●活動名	●関係する学校名
	安平町ふるさと教育・学社融合推進事業	安平町立安平小学校 安平町立遠浅小学校 安平町立早来小学校 安平町立追分小学校 安平町立早来中学校 安平町立追分中学校 北海道追分高等学校 はやきた子ども園 おいわけ子ども園

協働活動開始年度	平成20年度	関係学校数	9校	のべ学級数	33学級	のべ児童・生徒数	399人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	2人		24人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	初)H25.7.1(追分小) 終)H30.4.1(追分高校)		134人				
参考URL	—						



●連絡先 安平町教育委員会 社会教育グループ ☎ 0145-29-7036

●活動の概要・経緯

安平町では、地域総がかりの教育の実現を目指し、平成25年7月の追分小学校を皮切りに学校運営協議会の設置を進め、平成30年4月に北海道追分高等学校が設置したことにより、町内の全ての教育機関(子ども園2、小学校4、中学校2、高等学校1)への学校運営協議会の設置することとなった。

地域学校協働活動については、社会教育担当者と各校に置かれている「ふるさと教育・学社融合担当者(地域連携担当教諭)」が連携し、学校における教育活動や地域貢献への取組を一体的にコーディネートしており、幼・小・中・高間の交流授業をはじめ、地域を知るための「ふるさと学習」や地域人材を活用した「学社融合授業」を積極的に行うなど活動の充実に努めている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- はやきた子ども園では、「はやきただからできる」乗馬体験や自然体験等を推進しているほか、園の取組を地域住民が共有する目的で、地域向けの園開放日「みんなの参観日」を設定するなど、地域とのネットワークを重視した取組を推進している。
- 遠浅小学校では、学校運営協議会において、学校と地域のそれぞれの立場から、「災害時における避難所生活の体験が必要」との意見が出されたことを契機に、町をはじめ、町内外の関係機関や自治会、子ども会などが連携して、「遠浅地区防災キャンプ事業」を実施しており、災害時の協力体制構築の一助となっている。
- 町内の中学校と追分高校については、20以上の事業者による受け入れ協力のもと、職業体験を継続して行っている。

【実施に当たっての工夫】

- コーディネート機能の充実を図るため、社会教育担当者が地域の窓口、各校のふるさと教育・学社融合担当者等が学校の窓口となり、各活動を推進している。
- 活動の継続発展・推進の取組の充実に向け、町の放送事業「あびらチャンネル」でCSの取組を町内全体に発信するほか、各学校でもCS通信を定期的に発行し、それぞれの活動の交流や町全体に向けたCSの認知度を高める取組を行っている。
- 町内全小学校において、地域の農家や農業団体の協力のもと、収穫から稲刈りまでをサイクルとした「米学習」を小学5年生の授業として実施するなど、地域の特性を生かした活動を授業として実施している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 安平町は、これまでも地域と学校が連携し、地域の人的・物的資源を活用した学校支援活動に取り組んできたが、私立の子ども園を含む町内全ての学校にCSが導入され、子ども園や小学校の行事に中学校や高校が協力するなど、異なる校種の運営協議会との結びつきが強くなった。
- CSの取組が充実する過程で、「学校が取り組むこと」「地域が取り組むこと」「学校と地域が連携・協働して取り組むこと」がより明確になり、地域住民が主体となった朝の見守り活動が実施されるようになるなど、「地域住民の一人ひとりが、町の子どもたちを育てる当事者である」という意識が高まった。
- 追分高校の生徒がより地域と接する機会が多くなり、ボランティアなど地域に貢献する活動に取り組む生徒が増えつつある。

●その他

平成30年度に北海道追分高等学校(道立学校)が学校運営協議会を設置したことにより、子ども園から高等学校までの一貫した方針を掲げた目標設定が可能になり、全町一体となった取組の推進に向け調整を重ねているところである。



のはやきた子ども園と早来小との交流



遠浅地区防災キャンプ事業(簡易ペットづくり)